



# 学校だより

令和6年8月27日  
横浜市立豊田小学校  
8・9月号

豊田小学校ホームページアドレス <http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/toyoda/>

## 有事に備える

副校長

6月のある日、豊田小学校地域防災拠点運営委員会の方から、「学校にある貯水タンクの容量はどれくらいですか。」「土日や閉庁時等に、校庭にあるトイレや受水槽に地域の人が入ることは可能ですか。」などのご質問をいただきました。詳しくお話を伺ってみると、それらは有事に備えての相談でした。

今年のお正月に起きた能登半島地震では、停電・断水の日数が増えていくにつれて、暖房の確保やトイレ不足を訴える声が相次いだといえます。中でも、上下水道が損害を受け、生活用水が逼迫したことは大きな問題となりました。備蓄した水が途切れると、命を守ることはもちろんトイレや手洗いにも困るようになり、衛生環境が悪化して新型コロナやインフルエンザ、ノロウイルスなどの感染症がまん延したところもありました。また、トイレの使用頻度を減らす目的で、水分の補給や食事の量を減らすなどの誤った判断で脱水症状を引き起こすなど、災害時のトイレ問題は長期化するほど被災者の心身の健康への影響が大きくなることも明らかになりました。

地域防災拠点運営委員会の方たちは、今までも有事に備え、必要だと思われることを明らかにして訓練等に取り組んできました。しかし、新しい情報を得たことで、他にもすべきことがあるのではないかと考えたようです。長沼自治会会長であり、豊田小学校地域防災拠点運営委員の毛利さんはこう話します。「本部の委員や訓練に参加している地域の方々が、実際の災害の時に、必ず駆けつけることができるとは限りません。ですから、少しでも多くの方に訓練に参加していただき、拠点としての豊田小の備えを知っていただきたいし、子どもたちにも学んでほしい。」

本校では、8月30日に校内での総合防災訓練を計画しています。また、地域防災拠点運営委員会は、オープンスクールデーの11月9日(土)に、「豊田小学校合同防災訓練」として、地域の方々も参加する訓練を計画しています。この日は、仮設トイレが設置されたり、防災備蓄庫の中のものを見学したりします。

南海トラフ地震の可能性が高まっているとの報道もあり、我が家の備えを改めて見直すきっかけとなりました。どんなに備えても、「十分足りる」とは言えないのですが、備えたものはプラスにしかならないと信じています。子どもたちとの避難訓練も同様で、大切に積み重ね、備えていかなければと思います。9月1日は、「防災の日」です。各ご家庭でも、我が家の備えについて、子どもを交えて話していただけたらと思います。



本校屋上の貯水タンク。容量は4㎡。停電・断水になっても、この貯水分は使えます。



正門側。倒壊の恐れのあるブロック塀が、この夏、フェンスに改修されました。